

Builder:
Archi AirsNote:
軽井沢町/K邸
家族構成/4人

A 片流れの大屋根が悠然とした構えを見せるK邸。スギ板張りの壁は、部材の継ぎ目を細長い板材で押さえる「縦押縁仕上げ」にした。前面は特に間隔を狭くしてデザイン性を高めた。

セカンドハウスだから叶ったこと

東西の森へ抜ける目線が
非日常の愉悅をもたらす

「モデルハウスが群を抜いてカッコよかった」
他のビルダーで建てることをほぼ決めていて、ほんの冷やかしのためで寄ったアーキエアー

ズの展示場を見たときのことを、K夫妻はそう振り返ります。話を聞き、Long Loved Design（永く愛されて本物になる）という考え方にも共感し、モデルハウスのありようが一層胸に刺さりました。同社で実際に建てた方のお宅を見て、モデルハウスと質感に違いがないことも、アーキエアーズを選ぶ決め手となりました。

片流れの大屋根、その屋根に覆われたデッキの収まり、周囲の森と馴染み響き合う板張りの外壁、玄関や窓のすっきりとしたデザインなど、外観を見るだけで、すでにこの家はやはり「カッコいい」です。
室内は、1階がダイニングキッチンと吹き抜けの大空間からなるリビング、そしてサニタリースペース。南側の開口部の大きな窓に映る緑の、瑞々しさといったらどうでしょう。

さらに、この家で注目したいのは東西に抜けていく視線です。東側はリビング、ウッドデッキの先に、西側はキッチンの窓の向こうに、どちらも森が広がっています。その「抜け」というたくらみゆえ、家にいながらにして軽井沢の森の息吹を、まるでステレオサウンドを愉しむように味わえます。その特別な時間は、日常とは一味違うくつろぎをもたらしてくれそうです。



D 床はミズナラのフローリング、天井をマホガニーで化粧した構造用合板で仕上げたリビングに対し、黒を基調としたダイニングキッチン。その天井にルーバーを施し、リビングの質感とさりげなく馴染ませるあたりは、デザイナーが注文住宅をうたうアーキエアーズの心憎い演出です。

ふだん東京で暮らすKさん一家にとってこの家はセカンドハウスです。スキーが趣味で、軽井沢のゲレンデに家族で訪れていましたが、1シーズンに何度も通うならいっそ軽井沢に家をもとう、と考えました。そうしてできたのがこの家です。



軽井沢が、一年中行きたくなる場所になった

「ホテルだとチェックアウトの時間が気になるし、食事も時間の制約があったり、外に出なくちゃいけないかったり」とKさん。この家なら時間に追われることも、外食で煩わされることもありません。

面倒に思っていた料理も楽しみに変わりました。デッキでお酒を飲んだり、庭づくりに勤し

んだり、友人を招待してパーティーやバーベキューに興じたり。この家で過ごすようになって気づいた休日の楽しみがたくさんあります。

「冬だけ来ていた軽井沢が、一年中行きたくなる場所になりました」。この「カッコいい」拠点の今後の変化にも期待を込めて、夫妻はそう話してくれました。



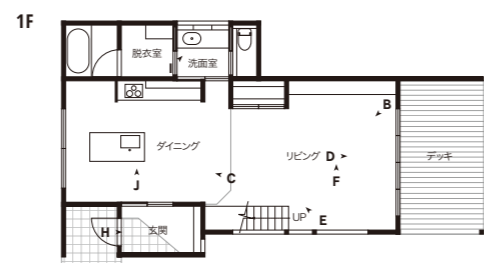
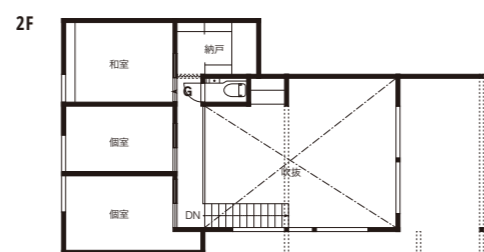
D_ウッドデッキの軒天はリビングの天井と同じ素材を用いて、屋内外につながりをもたせた。外の森がより身近に感じる。
E_2階はベッドルームが三つ並ぶ。森のプチホテルの客室と言われても、うなずいてしまえそう。

B_南側は吹き抜け部も含め大きく窓をとった。スケルトン階段だから、リビングはホテルのホールのように開放的。キッチンの方こうに映る緑も匂い立つように鮮やかだ。
C_黒を基調としたダイニングキッチンは、リビングよりも床のレベルを下げて空間をさりげなく仕切った。まるで、予約客のみの隠れ家レストランのような落ち着いた雰囲気。



K_ウッドデッキの面積もたっぷり確保。屋根がしっかり掛かっているの、リビングの延長としても存分に使える。L_引き渡しの日、完成した家に感激して、担当の設計事務所にサインを頼んだ。家族にとってかけがえのない記念になった。

PLAN



DATA

敷地面積	1011.16㎡ (305.27坪)
延床面積	109.39㎡ (33.02坪)
1F面積	66.62㎡ (20.11坪)
2F面積	42.77㎡ (12.91坪)
デッキ面積	13.66㎡ (4.12坪)

工法/木造在来軸組工法 基礎/ベタ基礎 構造材/柱:3.5寸角・4寸角スギ、土台:3.5寸角ヒノキ 断熱材/天井:ウレタン吹き付け220mm、壁:高性能グラスウール105mm・付加断熱ネオマフォーム45mm、基礎:ミラフォームラムダ50~100mm 主な外装仕上げ/屋根:ガルバリウム鋼板、外壁:県産スギ+塗り壁 主な内装仕上げ/天井:クロス・合板、壁:クロス・タイル、床:タイル・ミズナラ・チーク 開口部/トリプルガラス キッチン/永大産業 ラフィーナネオ キッチン熱源/IHクッキングヒーター パスルーム/タカラスタンダード リラクシア 暖房の種類/床下エアコン C値/0.28 UA値/0.26



F_テレビボードの棚は、インテリアとして見せる収納に。アーキエアーズのモデルハウスにならって造作してもらった。G_2階のベッドルームのうち右端の1室は和室にした。間接照明がつくりだす陰影が美しい。H_緑映える窓からの自然光と間接照明の控え目な光が融合し、玄関からして日常と一線を画する空気が流れる。I_ダークな色合いの洗面台と、マホガニーで仕上げた建具を組み合わせ、高級感を演出した洗面室。J_ご家族4人が1点ずつ選んだお気に入りのペンダントライト。これをモチーフに住まいづくりが進められた。



Owner:
Kさんご家族

Q1. 家づくりで一番大切にされたことは?

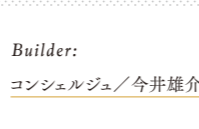
A この家に滞在する非日常の時間を豊かに過ごすこと。ゆったりしながら生活感のない空間づくり。

Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは?

A 広さを確保したリビングと屋根付きウッドデッキ。リビングとは対照的なクールなダイニングキッチン。ルーバー風に板張りした外観。

Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは?

A 自分たちのアイデアについて、メリット・デメリットを挙げたうえで、もとのアイデアがさらに良くなる提案をいくつもしてくれたこと。



Builder:
コンシェルジュ/今井雄介さん

Q1. この家のコンセプト、ポイントは?

A コンセプトは「両林の山荘」。東西に抜けのある空間と周囲の森が一体となるセカンドハウス。

Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。

A 東西に抜けがある。周囲の森を愉しめる。非日常を体感できる。

Q3. 家づくりで一番大切にしていることは?

A Long Loved Design~永く愛されて本物になる~。ご家族様にとって、永く愛せる住まいを実現することです。